

チャイルド・リサーチ・ネット (CRN) とは？

CRNは、子どもを取り巻く諸問題に関心を寄せる研究者・実践家のネットワークを構築する、インターネット上の子ども学研究所です。日本語・英語・中国語(簡体字／繁体字)の3言語によるウェブサイトでは、医学、教育学、発達心理学、脳科学、社会学など様々な学問の専門家による研究成果や、子どもや育児・保育・教育に関わる実践家・保護者によるレポートを、国内外から広く集めて発信しています。また、ウェブサイト以外でも、国際的な学術交流活動や、重要な社会問題に関する研究会を開催しています。子どもたちの未来のために、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

「子ども学」とは？

世界の子どもを取り巻く諸問題を解決するためには、従来の学問分野を越えて学際的な研究体制が必要ではないか—このような問題意識から、小林登名誉所長は「子ども学 (Child Science)」の考え方を提唱しました。子どもは生物学的存在として生まれ、社会的存在として育ちます。「育つ力」をもった子どもは親・家庭・学校、そして社会の「育てる力」との相互作用によって体を成長させ、心を発達させます。この「成育」の営みを支援していくのが「子ども学」のミッションです。「子ども学」は、自然科学・社会科学・人文科学の知見を総合した「人間科学」であり、様々な領域の専門家の対話を促します。

こんな方におすすめ



- 子どもをめぐる問題について、多領域の視点からの情報を得たい方
- 子育てや教育に関する海外の情報を得たい方
- 子どもに関する調査データを調べたい方

● CRN のあゆみ ●

- (年度)
- 1996・日本語・英語サイトオープン
 - ・シンポジウム「マルチメディア社会の子どもたち」
 - 1997・シンポジウム「中高生のデジタルな友達づくり」
 - ・ジェーン・グドール博士、シェイ・ベルスキー博士講演会
 - 1998・国際シンポジウム「メディアは子どもをどう育てるのか？」
 - ・CRNウェブサイト「WEBデザインアワード」銀賞受賞
 - 2000・国際シンポジウム「21世紀の子育てを考える」
 - 2001・研究拠点「ながやまチーきち」開設(～2002年)
 - 2002・CRN 実践保育研修会「保育の質を考える—心とからだを育む視点から」
 - ・「子ども学研究会」発足(日本子ども学会の前身)
 - 2005・中国語(簡体字)サイトオープン
 - 2007・CRN設立10周年記念国際シンポジウム
 - ・第1回 東アジア子ども学交流プログラム(上海・長沙)
(以降、「子どもの成長・発達と生活環境」、「子どもに優しいグランド・デザイン」、「脳科学と子ども」、「幼小接続」、「保育の質」、「遊びと学び」などをテーマに、東京、中国大陸各地、台北などで、2014年まで計10回、国際会議を開催)
 - 2012・中国語(繁体字)サイトオープン
 - ・第1回、第2回「放射線と子ども」研究会
 - 2013・榊原洋一が所長に就任、前所長の小林登は名誉所長に
 - ・第1回ECEC研究会「日本の保育の課題と展望」
 - ・第2回ECEC研究会「遊びと学びの子ども学～ Playful Pedagogy～」
 - ・第3回ECEC研究会「遊びの質を高める保育のあり方」
 - 2014・ドゥーラ座談会
 - 「子産み・子育てしやすい社会へ～ドゥーラ的な発想を軸に考える～」
 - ・第4回ECEC研究会「世界の保育と日本の保育～遊びの中に学びを探る～」
 - 2015・第5回ECEC研究会
 - 「世界の保育と日本の保育②～4カ国との比較から日本の保育の良さを探る～」
 - 2016・「CRNアジア子ども学研究ネットワーク(CRNA)」発足
 - ・CRNA第1回 国際会議「Child Caring Design ～子どもの発達・成育環境のグランド・デザイン～」(上海)
 - 2017・CRNA第2回 国際会議
 - 「社会情動的スキルをどう育むか～メディア、遊び、特別支援の観点から考える～」(東京)
 - ・『ECEC研究報告書』、『各国・地域のECECのマトリクス』発刊
 - 2018・ネットシンポジウム「何か変だよ、日本の特別支援教育」

● CRN の組織概要 ●

運営体制	所長 ● 榊原 洋一 (お茶の水女子大学名誉教授) 名誉所長 ● 小林 登 (東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長) 特別顧問 ● 石井 威望 (東京大学名誉教授) 研究員 ● 劉 愛萍、小川 淳子 (ベネッセ教育総合研究所)
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合 1-34 ベネッセ教育総合研究所 内

チャイルド・リサーチ・ネットは
ベネッセ教育総合研究所の支援のもとに運営されています。



9 CRNJP



子どもは未来である



子ども学研究所
チャイルド・リサーチ・ネットの
ご紹介



<https://www.crn.or.jp/>



ごあいさつ

事実に立脚した科学を目指す「子ども学」

「子ども学」の基本的な立場は、第一に学際的事実であり、第二に事実に立脚した科学を目指すことです。子どもに関わるさまざまな学問や実践を、できるだけ透明で中立的な視点で束ねる、そんな「子ども学」が私たちの目標です。さらにチャイルド・リサーチ・ネット(CRN)は、上記の理念の実現を日本国内だけで目指すのではなく、グローバルな視点で共有し深化させるための国際的な「場(arena)」を提供してゆきたいと思います。是非CRNを有効にご活用ください。



CRN所長。医学博士。お茶の水女子大学名誉教授。
専門は小児神経学、発達障害。

榊原 洋一

学際的な「子ども学」の必要性

まず申し上げたいことは、何故子ども問題の予防や解決に、「子ども学」という学際的な立場で話し合う必要があるのかということです。現在の子どもを取り巻く諸問題の原因は多様であるため、子どもの人間科学の基盤となる理念を学際的な視点から考える必要があるからです。その理念はシステム情報論、脳科学、子ども生態学などを柱として、異なった立場の研究者、実践家、保護者が問題解決に向けて話し合うことです。CRNがこの実現に役立てば幸いです。



CRN名誉所長。医学博士。東京大学名誉教授。
国立小児病院名誉院長。

小林 登

CRNの活動内容紹介

CRNでは、シンポジウムや研究会など実際の場での交流活動と日・英・中3言語のウェブサイト上での情報発信を通して、子どもを取り巻く諸問題の研究に取り組んでおります。以下に最新の活動内容を振り返りながら、ご紹介いたします。

ECEC研究

CRNでは、日本の保育・幼児教育をテーマの中心に据え、2013年度からECEC研究に取り組んでおります。ECECとは、Early Childhood Education and Careの略語で、人生初期の教育とケアを意味します。その中でも、保育・幼児教育は、後の就学や学習への影響が大きく、その充実が国の経済成長につながるなど立証されつつあり、近年、世界的に大きな関心を集めています。

日本の保育・幼児教育は改革が進む一方、課題も残っています。例えば、日本の保育・幼児教育の特徴は世界と比較して十分に把握されているでしょうか。もっと世界で認知されるようになるためには、何をすべきでしょうか。CRNでは、こうした日本の保育・幼児教育の課題を世界と比較しながら洗い出すとともに、その具体的な解決策を見いだす一助になればと、保育者や保護者、研究者が一堂に会する議論の場として、ECEC研究会を5回開催いたしました。

第1回「日本の保育の課題と展望」(2013年6月)

第2回「遊びと学びの子ども学～ Playful Pedagogy ～」(2013年10月)

第3回「遊びの質を高める保育のあり方」(2014年2月)

第4回「世界の保育と日本の保育～遊びの中に学びを探る～」(2015年2月)

第5回「世界の保育と日本の保育②～4カ国との比較から日本の保育の良さを探る～」(2015年10月)

いずれの研究会でも、議論された内容はレポートにまとめ、どなたにもご覧いただけるようにウェブサイトに掲載しております。

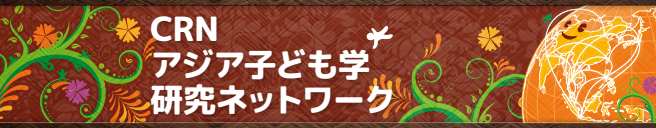


また、5回の研究会の成果を整理し、研究報告書としてまとめています。



CRNアジア子ども学研究ネットワーク (CRNA)

CRNでは、2007～2014年度まで10回に渡って「東アジア子ども学交流プログラム」を展開し、日本、中国大陆、台湾、韓国など東アジアの子どもに関わる研究者に、議論の場を提供してきました。そして、2016年度に20周年を迎えたCRNは「CRNアジア子ども学研究ネットワーク (CRNA)」を発足し、アジアの子どもを取り巻く諸問題の解決のため、活動しています。



Child Caring Design

～アジアの子どもたちのウェル・ビーイングのために～

理念

「子ども学」の視点にもとづくアジアの子どもたちの問題 (children's issues) の解決。そのためにアジアを代表する子ども研究の人脈ネットワークを構築し、各国の子どもを研究する専門家がそのネットワークを通して議論する。

対象国・地域

日本、中国大陆、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ

活動内容

- ①アジアの子どもを取り巻く諸問題をテーマとした「国際会議」の実施 (年1回予定)
- ②上記「国際会議」の議論の内容を中心とした、アジア各国の現状と課題のレポート (多言語発信)

CRNAの活動の一環として、日本、中国をはじめ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイの各国・地域の理事たちと力を合わせて、国際会議を2回開催いたしました。内容の詳細はウェブサイトに掲載しております。



第1回国際会議
「Child Caring Design ～子どもの発達・成育環境のグランド・デザイン～」(2017年3月、上海)

第2回国際会議
「社会情動的スキルをどう育むか～メディア、遊び、特別支援の観点から考える～」(2018年3月、東京)

研究コンテンツを
テーマ別に紹介しています

● 重点研究テーマ ●

社会情動的
スキル

子どもの発達や学びに大きな影響を与える社会情動的スキル。それを育むには、どうすればいいかを議論します。

遊び

子どもは遊びを通して、多くの経験をします。そうした多様な体験は、子どもの発達にどう影響するのかを考えます。

メディア

日々発展する情報通信技術。子どもたちのよりよい発達のため、これらをどのように利用すればよいかを探ります。

特別支援

障害の有無にかかわらず、子どもたちが安心して生活できる環境を、どのように整備していけばよいのかを考えます。

● その他の研究テーマ ●

保育・幼児教育 (ECEC)
産前産後ケア (ドゥーラ)
脳科学
災害時の心のケア

英語版



日本語版

中国語版

CRN

ようこそチャイルド・リサーチ・ネットへ

<https://www.crn.or.jp/>

日本語、英語、中国語
(簡体字／繁体字)の
3言語のサイトがあります